

# 保育者養成のための教材

南信子



教育用辞典によると「教材とは教育の目的を達するために形づくられた教育の内容をいう」とある。また、教材はカリキュラムを構成する素材であるともいわれる。「保育者養成のための教材」について考える時、まず保育者の定義を明らかにし、その養成の目的、内容、方法について体系的に理論づけることがなされているなければならないと思う。その上ではじめてこの問題について論ずることができるのである。

しかし紙面の都合上、それらの多くの問題について十分ふれることができないので、できるだけ標題にかかわりのある問題点について考察しながら論をすすめたい。

保育者とはもちろん幼児教育についての専門家であり、教育者であるといってさしつかえないと思う。どんな保育者を養成する

かということについては、人によってさまざまの意見のあるところであろう。また、現代の社会が現実に要求している保育者像もさまざまであり、これを必ずしも理想的であるとはいえない。これららの現実の問題をとらえることはもちろん大切であるが、それと同時に、次の時代に生きる幼児の教育はいかにあるべきか、その望ましい姿を、次の時代の理想の追求とともに考察しなければならないのである。今日の幼児教育は二十一世紀に活躍する人々を育てるのである。ゆえに現代の社会に生きながらも次の時代の望ましい姿をえがきつ、確信をもって幼児教育の問題を考える社会的視野をもった保育者が期待されるといえよう。それではこうした保育者養成の計画はどうのうに展開されるべきであろう。

一つは保育者として望ましい人格の形成であるといってよい。

それは人間の資質の問題であるともいえるが、また一面それは教育によって保育者を志すものが自覚を促されて自ら成長する過程であるといえよう。筆者はある地方で、国公私立の幼稚園の園長に対して出された「望ましい現場の教師」についてのアンケートの結果を知る機会が与えられたが、現場の保育者が要求している保育者像は必ずしも望ましいとは思えないことを痛感した。それはどこに原因があるのか、幼稚園教育の目的、あり方に対する考えの相違からくるのかもしれないと思うが、非常に近視眼的、外面向的な要求や期待も多いことを思う。

たとえば「地味であまり目立たないが、服装にも色調にもセンスのよき細心の心づかいが見られる」「言葉使いがていねいで礼儀正しい」「人からの注意は喜んで受け入れる」など、また単に「健康で明朗な人」とか「円満な人格」などが期待される場合が多いが、これらはもちろん保育者でなくても人間として必要な徳性であるといえよう。保育者は保育者である前に一人の人間として人格の成熟をめざし、たゆまぬ精進をつづける人でなければならぬと思う。そこで保育者養成を単なる職業教育と考えるのでなく、広い人間形成の場として考えることが望ましいのではないかと思う。

特に幼稚教育においてはその教育の人格形成に果たす役割が最

も重要な点があるので、保育者自身もいかにして人間の人格が成熟していくかという問題については自分の問題として考えることが大切なのである。人格は人格とのふれあいのなかで形成されるといえよう。保育者を志すものが、多くのすぐれた教授たちによってその学問を通してその人格にふれ、自らめざめ、自分を成長させ、保育者としての使命感と確信をもつことが大切である。

哲学、文学、宗教などの学問を通して、人間の生きることに対する思索なくして、人の教育にたずさわる叡智は与えられないであろう。また近代科学の進歩にともなって急変する現代の社会、世界の動きをしっかりとみつめ、時代の要求を知り、次の時代についての幻を与えるとして二十一世紀に生きる人を育てる確信は生まれてこないのでなかろうか。ここに保育者養成の大学がめざす人文科学、社会科学、自然科学など、一般教養の学問の重要性があると思う。

第二には、幼稚教育の専門家である保育者の養成における児童教育の理論を扱う学課目の重要性である。教育学を基礎として保育学を中心に、保育内容の領域が理論的に統一されることが大切である。保育界にはとくに教育技術を重んずる風潮があるが、理論の確立が先決であることを思う。保育者は古今東西の教育に関する学説を理解し、その教育の歴史に対する深い洞察がなければ

ならない。また保育原理は心理学や、精神衛生、小児衛生学などと横のつながりをもちつつ、現実の幼児と結びつかなければならぬといえよう。そこに実習の必要性がおこってくる。

実習は教職課程の一教科というよりもあらゆる学問の総合的実践の場をもつものである。実習によって直接に対象である幼児に接し、幼児に対する理解を深めていくが、二か年の保育者養成機関では十分にこのための時間をとることが困難である。最近はこれを補うために、また実習を効果的にするために視聴覚教材が多く用いられるようになってきた。

この方面の研究は先進国ではすでに十数年前より研究されており、アメリカ、オハイオ州立大学教授エドガー・デール教授による視聴覚的方法はよく人の知るところである。特に幼児の発達の理解のために、スライド、ハミリ、十六ミリ、ビデオコーダー、写真などを用いることが非常に学習に効果的であることを、筆者は米国留学中にしばしば経験した。最近は日本にも非常にすぐれたものが開発されたことは喜ばしいことであるが、これらの制作にあたって今後さらに研究しなければならないし、特に保育の専門家の指導によるものが多く生まれてこなければならないと思う。そのためには保育者養成機関の協力研究が必要なのでなかろうか。

なお実習に視聴覚教材フィルムを利用する一例をあげてみる。

第三に保育者養成の必修課程に保育内容の研究がある。文部省は幼稚園教育における保育内容として、音楽リズム、絵画製作、自然、言語、社会、健康の六領域をあげているが、いずれも幼児の成長発達および幼児の現実の生活に結びついた経験であるといえよう。これらの経験を通して望ましい人格の形成をめざすのであるが、特に、健康、言語、社会の領域は幼児の成長発達と現在および将来の健康安全で幸福な生活のために必要な内容であり、音楽リズム、絵画制作、自然の領域は幼児の成長発達の途上にあらわれる創造性や科学性の芽生えと直結し、しかもこれらは人類が今

日まで受けついできた文化の遺産もあるわけである。もちろん幼児教育においては教材そのものを与える目的ではない。

数多くの文化財のうちより幼児の成長発達に即したものと精選して与え、それらを通して現在及び将来に生きる人格形成に役立てようとするものである。それらを媒体として豊かな人間性を培うことがねらいである。ゆえに保育者養成にあたってはこれらの領域に関する広い知識と、技術を伴った豊かな教養が必要であるといえよう。そこで次にその領域のひとつにふれてみたい。

### 音楽リズム

幼児のための音楽リズムはそれを通じて創作的表現に対する興味を養うことをねらいとするが、保育者として幼児のうちに潜在する音楽性をひき出すためには保育者自身の音楽に対する関心とある程度の教養、技術が必要であり、保育者は、真に音楽を愛好し、よい音楽を鑑賞、選択する能力をそなえていることが望ましい。また自らの感動を音楽にあらわすことができればこの上ないが、せめて子どもが自然にうたい出すメロディーを音楽として作曲再現して与えることができる、子どもとともに音楽を楽しむことができるのではないか。

いずれにせよ保育実践の場に必要な楽器を弾く能力や、幼児に望ましい音楽的経験、たとえば、歌唱、リズム的活動、音楽鑑賞、木工道具、その他あらゆる幼児の造形活動を活発にする教

賞、樂器の使用などのために必要な技術を十分訓練することが大切である。こうした技術を軽んずることがないように指導しなければならないと思う。また幼児の音楽的発達や興味に対する知識を十分にもち、最近の氾濫する音楽的環境、教材の中にあって、真に音楽性の高いものを選択して与えなければならないのである。

### 絵画製作

幼児のための絵画製作は音楽と同じく創作的表現に対する興味を養うことをねらいとしているが、保育者自身が美術に対して深い関心をもち、古今東西の名作に深い感動をもつよう指導されることが大切である。また一方保育者として幼児の描画活動、造形活動を理解し、その発達段階に対する研究がなされていなければならぬ。幼児の画や制作したものをいかに見るべきか、その望ましい指導について確信をもつことが大切なのである。また幼児とともに自ら描き制作することに喜びをもつことができるならば幸いである。また保育実践の場において、幼児に必要な絵画製作の材料に十分親しみ、その使用法などに熟練する事が大切である。

ポスターカラー、フィンガーペイント、プレイドウ、ねんど、

材の選択とその指導に堪能でなければならない。

### 自 然

自然觀察は日本の幼稚園教育においては早くより保育項目のなかに取り入れられてきたが、この領域は自然科学の初步に関する知識を与えるというよりも、幼児をとりまく自然の事象に対する

正しい理解と態度の芽生えを養うことがねらいである。自然は人間の人生に深いかかわりをもち、いわゞ語らずのうちに多くのことを教えている。すなわち自然界はそのまま豊かな教材を提供しているのである。ゆえに保育実践の場においては、単に自然についての知識を与えるだけでなく、自然に深い関心と愛情をもち、さらに畏敬の心をもつよう指導することが大切である。また日常生活の中で科学的な態度が養われるよう、広い心で正しく物事を観察し、常に原因と結果を追求しようとする心を育てるようにしなければならない。

### 言 語

言語発達の著しい幼児期の言語指導の責任をもつ保育者には多くの課題があるよう思う。幼児の聞く力、話す力を育てることが重要な保育者の役割であり、生活の中では彼らのびのびと言葉が聞くことができるよう指導しなければならないが、そのためにはそれぞれの段階における言語発達に細心の心づかいが必要であろう。また保育者自身の言語生活に絶えず検討が加えられなければならないと思う。保育者は自分自身の音声や、言語の用い方について、テープレコーダーなどを用いて訓練することが望ましい。

また児童文学に関する十分な知識をもち、文学が人間の人格形成に果たす役割の重要さを認識することが大切である。最近は絵話、紙芝居、ペーパーサート、人形芝居などの教材を通して童話を与えることが非常に多いが、それらがその童話の文学性を破壊したり、単に娯楽化してしまわないように注意することが大切である。また数多い童話、詩、絵本の中から文学的な香りの高いものを選択し、発達や年齢に応じて与えることができ、幼い日によい文学への愛情を育てるようにしなければならない。

### 社 会

保育内容の「社会」では、幼児の社会性を育てることおよび社会の事象に関する正しい理解と態度の芽生えを養うことがねらいとされている。これらの指導のためには保育者自身が望ましい人生観、社会観、世界観をもっていることが先決であり、さらに幼児の社会性の発達について正しい理解をもって確信のある指導がなされなければならないと思う。また社会の事象に関心をもたせ

るために、対象である幼児の実態に即して適當な教材を提供することが大切であるが、社会機能を理解させるための幼児向きの教材が非常に少ないので、今後もっと研究がなされなければならないと思ふ。

### 健 康

健康の領域を指導するためには、個人の基本的習慣の形成、健康管理、学校保健、小児病学、栄養学など広い範囲の知識が必要であり、さらに体育に関する指導をするに必要な技術も修得しなければならない。また遊具に関する知識としてそれらの価値や指導の方法などに熟達していなければならぬし、幼児の身体の発達、運動能力について十分な知識をもつてることが大切である。

以上保育内容の研究に必要な具体的な内容について述べたが、一般的に幼児期は言葉のみによる概念的理解は困難であり、感覚を通して具体的な直接的経験により物事を学ぶので最近は視聴覚教材を用いることが非常に盛んである。

その種類は多種多様で、幼稚園教育の花形の觀がある。たとえば最もよく用いられるものに、絵本、紙芝居、人形芝居、幻燈、映画、テレビ、写真絵、レコード、テープレコーダーなどがあり、その他、黒板、ポールド、地図、ポスター、模型や演示、劇化、見学なども盛んに取り入れられてきた。保育者はこれらにつ

いて、その目的と用い方、その教育的価値について深い理解をもつと同時にちいりやすい欠点に留意しなければならない。どこまでもこうした教材は教育を効果的にする手段であつて、教育そのものではないことを忘れてはならない。

以上保育者養成のための教育の内容として、その人格形成の問題と幼児教育の専門家としての理論の確立および保育実践の場における保育内容の領域研究の問題にふれて考えてきたが、教材はその養成機関の保育者養成の理念によつて相違があらわれることは当然である。ゆえに教材の選択にはまず保育者養成の使命と目的の確立がなければならないのである。また教材には伝達すべき価値としての人類の遺産が正しく含まれているはずであり、また時代の社会的要求と学生の個々の生活と経験、能力、興味などを配慮がこめられていなければならない。

保育者養成が画一化した人材を保育界に送り出すのではなく、保育者を志すものの主体的な研究や活動をよびおこすことができるような教材とその方法が必要なのである。その教育が目的を達成するか否かは、すべてその教材の選択とそれを指導するものの人格と能力にかかっているといえるのではなかろうか。